

「木曾谷の植物」補正

奥原 弘人

H. Okuhara : A correction to 「Flora of Kiso district」

タマガワホトトギスの1変種

昭和46年発刊の小著「木曾谷の植物」において、木曾の田立国有林にスルガジョウロウホトトギスのあることを述べたが、その後の観察によって、これは誤認であることが判ったので、ここにこれを訂正したい。この草は岩に生え、小形で斜めに垂れ下がり、茎頂に少数の花をつける点でスルガジョウロウホトトギスに似ているが、花などからみて、これはタマガワホトトギスの変った形とみられる。上記のように、全体が小形で斜めに垂れ下がり花も少数であるほか、葉が狭い点でタマガワホトトギスそのものとも異なっているので、これをタマガワホトトギスの変種と認め、*Tri-cyrtis latifolia* Maxim. var *kisoensis* H. Okuhara キソホトトギスと呼ぶこととしたい。

ミツバツツジの間種

先年木曾でミツバツツジとみられる小苗を2株掘りとり持ちかえり、庭に植えておいたところ、数年前から花をつけるようになったが、その中の1株は雄しべの数が花によって5～9本と不定である。これは南木曾町の天白で掘り取ったことを思い出し、同地にはこのようなものが他にもありはしないかと考え、昨年4月24日同地を訪れた。同地は木曾川右岸の台地で先にナギミツバツツジを発見した所でもあり、ミツバツツジ類の群生地として現在は保護されている所でもある。歩いてみると大多数はコバノミツバツツジであるが、ミツバツツジもかなりの数混っていて中に雄しべの数が不定数のものも数株見つかった。

木曾谷におけるコバノミツバツツジの北限自生地は大桑村北部の木曾川右岸、鳥捕山の東南麓の台地で、ミツバツツジは更にこれより5 km ほど北上している。数日後この台地を訪れた時は花は終りに近かったが、ここにも多くのコバノミツバツツジの中にミツバツツジも混っており、問題のものも数株見つかった。これら山で見たものは雄しべの数6～9本のものが普通で、ある株では8本のものが最も多かった。その他の点では葉にはあらい毛が特に下面に多かったが、上面・葉柄・花柄・子房には腺毛があって毛も混っていた。

これらは産状や形態からみてミツバツツジとコバノミツバツツジとの間種とみられるので、これを *Rhododendron* × *kisoensis* H. Okuhara キソミツバツツジと呼びたい。この形のもものは木曾の南部ではこの地以外の所でも見られるものと思う。